

第 78 回定時株主総会

質疑応答（要旨）

- ・株主総会当日の主なご質問およびその回答について、内容を要約して掲載しております。
- ・同じ趣旨あるいは類似のご質問については、ひとつにまとめて掲載しております。

Q1	生活習慣病領域（肥満症など）の研究開発方針を教えてください。
A1	当社は現在、肥満症全般を対象とした創薬研究は行っていない。一方で肥満症を含め、医療ニーズの高い疾患領域において、病態メカニズムに対応し、ファースト・イン・クラスとなり得るような新薬開発については積極的に取り組んでいきたいと考えている。
Q2	今後の財務戦略について教えてください。
A2	当社は、2024年6月にデサイフェラ社を買収した際に借入を行ったが、現在も借入金を上回る現預金等を保有している。当社は、年間1,500億円前後の研究開発投資に加えて、パイプライン獲得などの成長投資も積極的に行っていく方針である。さらには株主様への配当のほか、財務戦略を機動的に行っていくためにも手元流動性はある程度余裕を持って確保しておく必要があると考えている。今後も金利環境の変化も踏まえながら、資金の有効な活用と成長投資を進めていきたい。
Q3	単体の損益計算書に計上されている「営業権譲渡損」と「製品回収関連損失」の内容について教えてください。
A3	「営業権譲渡損」は、フォーシーガ錠の共同販売契約終了に伴い計上したもので、営業権の譲渡対価と、従来から無形資産として計上していた営業権との差額を損失として計上した。また、「製品回収関連損失」は、製品内への異物混入の懸念に対応し自主回収を実施した際の費用である。なお、回収した製品について、異物混入による健康被害は確認されていない。
Q4	人財戦略（採用・育成等）について教えてください。
A4	事業環境の変化に伴い、国内人員の効率化を進めていく一方、今後のグローバル展開を見据えた人財戦略に取り組んでいる。中期経営計画に基づく成長戦略を推進するために必要な人財として、専門人財と横断人財の採用や育成に取り組むとともに、女性活躍を中心とした多様性の向上にも力を入れている。
Q5	今後のグローバル展開を見据えて、海外市場を意識した社名への変更を検討しているのか。
A5	現時点で社名変更を具体的に検討している状況にはないが、今後のグローバル展開の進展に伴い検討課題となる可能性はある。現時点では、大阪で300年以上の歴史がある会社として、現社名を大切にしたいという気持ちがある。

第 78 回定時株主総会

Q6	コスト上昇に伴う製品価格への転嫁について教えてほしい。
A6	薬価は公定価格であるため、増加したコストを販売価格に転嫁することはできない。また、毎年の薬価改定によって価格が引き下げられるので、コストや物価の上昇に対しては、業務効率化などにより対応しているというのが実情である。このような状況について、政府でも検討がなされているので、制度面の改善にも期待したい。
Q7	政策保有株式の縮減方針について、その趣旨を教えてほしい。
A7	政策保有株式は、従前より主に機関投資家の皆様からコーポレートガバナンス上の問題や事業に活用されていない金融資産として、批判の対象となっていた。これに対して当社では、この数年間で政策保有株式の縮減を進め、現在では連結純資産比率は 10%未満 (9%水準) となっている。政策保有株式の売却により得た資金は、パイプラインの強化をはじめ、今後の成長につながる投資に活用していきたいと考えている。
Q8	海外投資家向けの IR 活動状況について教えてほしい。
A8	当社では、海外投資家向けの IR を積極的に行っている。会長や社長による機関投資家訪問や証券会社が主催するカンファレンスへの参加などを通じて、投資家と面談を行い、当社に対する関心を高めてもらえるよう努めている。今後も北米、欧州、アジア（香港、シンガポール等）を中心に活動を継続していく方針である。

以上